

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071201133		
法人名	有限会社サライ		
事業所名	グループホームみんなの家		
所在地	福岡市西区能古324-1 (電話)092-894-1305		
自己評価作成日	平成29年1月18日	評価結果確定日	平成29年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

海や森に囲まれた環境の中でゆったりとしたアットホームな生活をして頂くよう支援している。素麺流しや花見等自然を活かしたイベントを毎月実施し笑顔のある暮らしを提供している。また、バスハイクを行い施設と違った食事や景観などを楽しんで頂いている。日々の生活の中でも、本人の意見や自己決定を尊重し、思い思いに生活ができる環境づくりに努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成29年2月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

博多湾に囲まれた島で、四季折々の海と山の景色を楽しむことができる。道を挟んで向かい側に同系列のデイサービスセンターが位置する。能古島内に3つの社会福祉法人施設があり、合同会議を定期的に行い情報交換や交流を深めている。地域とのつながりを大事にしており、地域活動や行事参加がさかんにおこなわれている。事業所の理念になっている「笑顔のある暮らし」が職員・利用者共に実践できている施設である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者や職員は理念を共有し日々ケアに取り組んでいる。事務所や玄関に掲示し常に意識する事を心掛けている。	事業所独自の理念「笑顔ある暮らし」を心がけ、実践に向けて日頃から声かけやケアに取り組んでいる。全体会議で理念について話し合っている。行事参加や散歩時の声かけ等地域の人々との交流を深め、地域の中の施設を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域の方の参加を呼び掛け交流を深めている。また地域の行事（運動会、夏祭り）にも参加し地域との関わりを大切にしている。	自治会に加入しており、青年部の会議に参加をしている。地域の清掃活動・運動会等に参加している。事業所の敬老会・忘年会には地域住民の参加がある。保育園の子供達がひな祭りの時にきたり餅つきの際は小学生の参加がある。近所の人がお花や野菜のおすそ分けをもってこられたり、デイサービスに利用者が遊びにみえることがある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年島内にある中学3年生の受け入れを行い福祉体験学習の中で入居者様の生活を見たり福祉用具の体験をしてもらい認知症について理解を深めてもらえるように実施し、また、島内でのキャラバンメイト開催時、地域の元小中学生を交え当施設での理解も呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月毎に実施し施設の現状や報告を行い、家族、地域の方、行政市等の意見や考えを共有しサービスに反映できるよう最善を尽くしている。	2か月に1回運営推進会議を開催している。利用者に参加の声かけをしているが参加はない。会議の構成員は地域包括支援センターと公民館館長等地域住民代表が多い。利用者やサービス状況、評価への取り組みを報告・話し合いをしている。家族より避難訓練について質問あった内容等をサービス向上にいかしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各担当者の方々へケアプランサービスについての質問、申請等連絡や相談を密に行い、連携を図りサービスケアの向上、協力体制の強化に努めている。また市にはサービスについての相談をしている。	日頃から主に電話で行政に報告・連絡・相談をしている。認知症サポーター養成研修をしたり、公民館で認知症について話をしたことがある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険度や転倒のリスク高い場合や緊急性がある場合は家族へ相談し同意を得ている。実施した場合は期間を設定し、早目の取り外しを担当と話し合い拘束の中止の検討を行っている。	1階の玄関・居室は施錠されていない。階段・非常口・玄関はセンサーを設置している。家族希望で4点柵をしているケースがあり、利用者の家族に説明をして文章で同意をもらっている。1か月毎に拘束が必要かカンファレンスで検討している。身体拘束に関するマニュアルがあり、外部研修を受講した職員が全体会議で伝達講習をしている。	身体拘束にあたる12項目の内容を正しく理解し、身体拘束せずに安全に過ごせるようなケアの工夫をしてほしい。また、ご家族にも身体拘束をすることの悪循環を理解していただくような取り組みをしてほしい。
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より入居者に対し意識、尊厳を持ち内外研修について合同会議で報告し職員が周知し虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し研修報告書を作成、回覧後合同会議時に報告を行い、各職員への周知、共有化、知識の向上に努めている。	権利擁護に関する制度の説明は運営推進会議や必要に応じて説明をしている。外部研修を受講した職員が全体会議で伝達講習をしている。テキスト・パンフレット・報告書は整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族に解りやすく丁寧に説明を行い、契約、解約時に誤認や誤解が生じないように細心の注意を払い、随時本人、御家族の要望を汲み取りサービスとして提供できるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族または本人へのアンケートの実施にて意見や要望を集約し、合同会議時に報告し反省や改善に向け施設運営やサービスの向上に努めている。	日頃から利用者の要望や意見を聴く機会をつくっている。外食時は利用者が希望する天ぷらを食べに行ったり等利用者の要望や意見を取り入れるようにしている。家族会は運営推進会議後に行っている。家族面会時や電話で利用者の状況報告をするときに、家族要望や意見を聴き日頃の活動内容の検討など家族の意見を反映するようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員へ年2回のアンケートを実施、その後各スタッフと個人面談を行いお互いの考えや思い、要望を共有している。また改善の必要性があれば、管理職会議や合同会議にて議題として取り上げ運営の向上に努めている。	今回の自己評価は全職員の意見を取り入れて取り組んだ。管理者は全体会議や個別面談で職員に意見を聴く機会をつくっている。職員が希望する福祉用具を購入したり、夜勤手当の給与面の改善等職員に意見を運営に取り入れている。やむをえない場合を除き、異動や離職は抑えるように管理者は心がけている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無資格者や資格取得への向上、研修参加の要望があればシフトを考慮している。また毎月の希望休や有給希望をシフトに反映している。職員の賞与の見直しや処遇改善について毎月給与に反映している。就労時間は船の時間に合わせ定時で帰宅できるようにしている。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用面接時はその方のスキルや人柄に重点を置き行っている。また、スタッフの能力を活かせるようできる限り管理職が職員のサポートを行い、能力を発揮できる環境づくりや勤務体制の構築に努めている。	採用選考では、特定の理由で採用対象から外さないようにしている。資格取得や配置異動等の要望がある場合、研修の参加・勤務の配慮等を行っている。定年退職後、希望があれば再雇用している。管理者は安心して働きやすい職場づくりを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権を尊重する為に施設内外の研修で知識、意識を高め全体会議時に報告し人権を大事にしたケアができるよう教育を行っている。	外部研修で人権研修に参加した職員が全体会議で伝達研修をしている。テキスト・研修記録・報告書は整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量や状況を判断しながら研修の参加を促している。研修の資料は全スタッフが閲覧できるようにし、情報の共有を図っている。会議時にも、内部研修を兼ねた勉強会を実施し働きながら学びやすい環境を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホームの情報交換会に定期的に参加し勉強会や研修会の機会に情報交換に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や思いに耳を傾けゆっくりと時間を掛け信頼関係を築いている。また、安心した生活が送れるように話しやすい雰囲気や環境作りにも心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は必ずケアマネージャーとの面談を行い、家族の思いを傾聴し要望や不安等を聞き安心できる対応を行い、信頼関係の構築に努めている。		
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のおかれている状況を理解し各担当者とその時必要なサービスを見極め可能な限り支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活歴や経験、情報を共有し常に尊敬の念を持ちながら暮らしを共にする者同士の関係を築いている。また、生活する中で出来ることを手伝って頂いたり、教えて頂く事や気遣って頂く事もあり信頼関係を深めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子を面会時や生活状況報告者作成し郵送している。また施設行事には家族の参加を促し本人と家族が触れ合えるきっかけ作りを行い、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族（親族）が行事等に参加できるよう案内状を郵送し面会に配慮している。地域行事の参加にも付き添い施設行事には、地域の方々を招待し社会的交流の場となるよう支援している。	契約時に利用者の馴染みの人や場について情報を聴いている。家族や知人への電話や手紙を書く時に手伝う、本人が会いたい知人に会いにきてもらう等馴染みの関係が継続できるようにしている。家族の協力を得ながら本人の馴染みの場所に出かけることもある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の意思を尊重し他入居者と一緒に洗濯物たたみやお盆拭き、野菜の下ごしらえ等、日常のお手伝いをして頂きながらお互いが関わり合うよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業者所のサービスを受けられる際には、当施設でのアセスメント、ケアプランの情報提供を行い今後のサービスがスムーズに実施されるように連携を図っている。必要に応じて本人、家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント、モニタリングを有効活用しながら本人・家族の意向や希望を確認後、介護計画に反映している。本人の意向・希望の確認が困難な場合には周囲関係者への聞き取り、生活歴やパーソナルな部分に焦点を合わせてその人らしさに配慮している。	職員は日常的に利用者の思いの把握に日常的に努めているが、意思疎通が困難な利用者にはジェスチャーを用いたり、生活歴や家族からの情報で思いを推察している。また利用者の気持ちを理解しようと、些細な所作にも目を配り、他職員や家族と共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人・家族・前ケアマネ・各関係者へ聞き取りを行うと共に介護計画書・サマリー等の資料の情報収集することでこれまでの暮らしを把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の保有能力を生活リハビリや日常の様子から探り出し、支援することで達成感のある暮らしとなるよう努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表の見直しを行い充実したカンファレンスを目指している。家族や各関係者とも情報を共有して互いの知識やアイデアを反映させた介護計画書を作成している。	介護計画は利用者や家族の意向を基に、担当職員や医療関係者等の意見を参考に、介護支援専門員がアセスメントし、立案する。その際、家族に報告、署名捺印をもらっている。モニタリングは3か月に一度行い、見直しを行っている。担当職員の介護の提案も取り入れて、チームで検討されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は介護日誌へ記入し、モニタリング表でケアプランの達成度を評価している。家族へは毎月生活状況報告書（写真つき）を作成して入居者の様子を報告している。各個別記録を基に職員間で情報を共有しながら介護計画書の見直しを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の日々変化する状況に流動的に対応できる体制を整えている。また施設内のサービスを多様化を充実させる為に管理者・介護職・専門職の報告・連絡・相談の徹底に取り組んでいる。		
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる運動会や花火大会その他の行事を見学したり、ホームを地域の中学生福祉体験学習の場として提供している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族がかかりつけ医と面談され納得して受診できるようサポートしている。特変がみられた際は早急にかかりつけ医に連絡をとり迅速な対応を行い、本人、家族が安心して適切な医療を受けられるように支援している。	往診による体調管理を基本とした受診としているが、利用者と家族が他医療機関への受診を希望する際には職員が同行して適切な受診ができるよう支援している。処方などの変更は家族に報告し、情報の共有を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の変化を常に観察し特変がみられた場合には施設看護師や訪問看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際、医療機関と互いに情報を共有し本人にとって適切な治療を受けられるように支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の方が最後まで人間らしく尊厳を保ち安らかな死を迎えられるように職員一同誠意を持ってケアに努めている。人生の最後の時を家族に見守られて迎えられられるように、家族の理解と協力を仰ぎながら、家族と職員一同が一体となってケアを行う事で入居者の孤独感を取り除き、安らかな死を迎える事ができるように支援している。	事業所の方針は「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りケアの同意書」として明文化されており、利用開始時及び必要に応じて利用者家族に説明し、同意を得ている。職員は利用者、家族の意向を踏まえ、利用者にとって最善と考えられるケアをチームで行い、機能が改善したケースもある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生や緊急時の連絡対応方法について対応マニュアルを作成している。避難訓練時には、AEDキッドを使用した訓練を行い全職員が対応できるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時や災害時の対応についてマニュアルを作成している。昼、夜間帯を想定し車椅子の非常階段からの避難訓練を消防署の指導も受け定期的を実施している。また、AEDの対応を全職員対象に的確にできるように実践訓練を重ねている。	事業所独自のマニュアルが準備されており、火災、地震、風水害に対応している。夜間想定を含め年に2回の事業所独自の避難訓練には地域の消防団の協力があり、消防署からも適宜指導を受けている。その他地域の防災訓練もあり、職員の防災意識は高い。非常用備蓄品も確保されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの意思を尊重しプライバシーを損ねない対応を行い、暮らしやすい環境を保てるよう努めている。	各職員は排泄時や入浴時の支援に特に配慮している。また、あからさまな介護にならないように職員間で気をつけながら、利用者のプライバシーを尊重した支援に努めている。プライバシーの保護、個人情報の取扱いに関して、同法人内の合同会議で研修が行われている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類、嗜好品の選択と本人の要望と意思を日々の生活の中で働きかけ、自分の意思尊重し決定できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	判断力のある入居者は就床や起床、食事、入浴、休息等本人のペースに合わせた生活を大切に、できるだけ本人の希望に沿えるよう支援している。認知症により判断ができない方は職員が支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容の依頼を行い、清潔感を保ち外出、行事の際は本人に合った服を準備しお化粧品など支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体能力に応じて調理の下ごしらえを手伝って頂き、食事の意欲、活力を引き出している。行事では、季節の食物を取り入れ四季を感じて頂けるよう提供している。	食材業者によるカロリー計算された献立を基に、利用者の食べやすさや好みの味付けを職員が把握し調理方法を工夫している。更に利用者にあらかじめ献立を伝えたり、野菜の皮むきや盛り付け等の準備を一緒に行い、また行事食には利用者の希望を取り入れる等、食事が一層楽しみとなるように努めている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにて栄養のバランスを考えたメニューで調理し、入居者の摂取状態に合った形態や水分量を把握し支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各入居者の口腔内の状況を把握し保有能力を活かせるよう支援を行っている。定期的な受診が必要な方は、訪問歯科や受診にお連れし清潔保持のケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け管理することで、入居者の排泄パターンや習慣を把握しトイレで排泄して頂く支援している。また、トイレに誘導する事で失敗やオムツの使用を減らすよう努めている。	職員は可能な限りトイレでの排泄を支援している。各利用者の排泄のサインを把握、更に排泄表で確認もしながら排泄の自立支援を行っている。また、担当者会議で各利用者に適した最小限の尿とりパットやおむつを検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時に果物、芋、乳製品を多くとって頂くよう積極的に取り入れるなど工夫をしている。排便困難な入居者は主治医に相談し服薬等でコントロールしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴はできるだけ、入居者の希望する時間帯や順番等タイミングを合わせて支援している。拒みのある方には、声掛けや誘導方法を工夫し無理に勧める事はしない様に努めている。その方の状態に合わせて、二人介助で入浴介助を行っている。	毎日入浴できるよう準備されており、利用者の習慣に合わせた入浴時間の対応もしている。また職員は各利用者の入浴方法の支援に努めており、入浴拒否の利用者には入浴前の言葉かけの工夫や、更衣場でくつろいだ時間を設けるなど、利用者が心地よく入浴できるよう努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調を留意しながら午前午後と休息して頂いている。また、安眠して頂くよう照明や室温の調整を行い環境作りに努めている。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の詳細が職員に分かりやすいように、各個人の介護記録表に処方説明書を貼り付け確認できるようにしている。また、薬について配置している薬剤師に相談し薬についての理解を深めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会を設けご自分の誕生日を思い出す雰囲気を作り、職員、入居者の方と交流を深め楽しい時間を共感している。入居者一人ひとりの残存能力を活かし役割を持ち意欲を維持できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として年2回外出（バスハイク）の企画を考え入居者、家族の参加をふまえて地域の方々の協力のもと島内や状況を見て島外へ外出できる支援を行っている。	事業所周りの散歩を日常的におこなっている。また年間の行事計画を立て、家族の協力も得て、外食やドライブと四季折々に外出の機会を設けている。その他、利用者の希望に応じて、生まれ育った地域に出かけるなど、利用者の思いを汲んだ外出支援も行われている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする、物品等があれば本人の意思に添い理解できるよう説明を行った上で、スタッフ代行にて対応とし金銭管理は、領収書を出納帳に記入し保管している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が困難な方は、家族へ生活状況報告書を郵送し日常の状態、状況を伝えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはバリアフリーで、玄関スペースにクリスマスツリーや鏡餅、ひな人形等や花等を飾り季節を感じ取れる工夫を行っている。	食堂、居間にはテレビ、ソファが置かれ、壁には柱時計やカレンダー、絵が掛けられており家庭的な雰囲気となっている。行事の時の利用者の生き生きとした表情の写真も飾られており、居心地良い空間となっている。またトイレ、風呂等は大きく表示され、利用者が安心して生活を送れるよう、配慮されている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りが必要な方はリビングで過ごして頂いている。また独りで過ごされる時は安全面を考慮し人感センサーやセンサーマットを設置した工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家具、使い慣れた物を居室に設置し本人が馴染みやすく安心できる空間、居心地良く過ごせる支援をしている。要望時家族が宿泊される際は和室を提供しています。	居室には入所前に使用していた寝具やテレビなどが持ち込まれており、畳を敷き仏壇を置いている利用者もいる。また家族写真、初詣の縁起物の飾りや趣味の手芸品も置かれ、利用者が心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、リビング、玄関に手すりを設置し各居室やトイレ、浴室には分かりやすいようプレートを下げ入居者様が自立し安心、安楽な生活が送れるよう支援しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を事務所や玄関に掲示している。毎月の合同会議に時に唱和して意識向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域の方の参加を呼び掛け交流を深めている。また地域の行事（運動会、夏祭り）にも参加し地域との関わりを大切にしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年島内にある中学3年生の受け入れを行い福祉体験学習の中で入居者の生活を見たり福祉用具の体験をしてもらい認知症について理解を深めてもらえるように実施し、また、島内でのキャラバンメイト開催時、地域の元小中学生を交え当施設での理解も呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に運営推進会議を行っている。施設での入居者の様子などを報告している。参加された家族、地域の方々、市等の意見を共有し、サービス向上に最善を尽くしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各担当者の方々にケアプランサービスについての質問や連絡を密にしている。申請について相談等を行いサービスケアの向上に努め、協体制の強化に取り組んでいる。また市にはサービスについて相談をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険性が高く、緊急性がある場合、家族の同意を得て実施している。また、期間を設け早目の取り外しに向け担当者会議を行い、拘束中止を検討している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より入居者に対し意識、尊厳をもち内外研修について合同会議で報告し職員が周知し虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、報告書を作成して回覧している。各スタッフへの周知、情報の共有を行い、意識の向上に努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、本人、家族に解かり易く説明し、誤認や誤解が生じないように細心の注意を払っている。本人、御家族の要望がある場合それを汲み取りサービスとして提供できる様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にアンケートを実施したり、運営推進会議での意見や要望を集約している。それらを合同会議時に報告し、反省や改善に向け、施設運営の向上に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員へ年2回のアンケートを実施、その後各スタッフと個人面談を行いお互いの考えや思い、要望を共有している。また改善の必要性があれば、管理職会議や合同会議にて議題として取り上げ運営の向上に努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無資格者の資格取得への向上、研修参加の要望があればシフトを考慮している。また毎月の希望休や有給希望をシフトに反映している。職員の賞与の見直しや処遇改善について毎月給与に反映している。就労時間は船の時間に合わせ定時で帰宅できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用面接時はその方のスキルや人柄に重点を置き行っている。また、スタッフの能力を活かせるようできる限り管理職が職員のサポートを行い、能力を発揮できる環境づくりや勤務体制の構築に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権を尊重する為に施設内外の研修で知識、意識を高め全体会議時に報告し人権を大事にしたケアができるよう教育を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量や状況を判断しながら研修の参加を促している。研修の資料は全スタッフが閲覧できるようにし、情報の共有を図っている。会議時にも、内部研修を兼ねた勉強会を実施し働きながら学びやすい環境を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホームの情報交換会に定期的に参加し勉強会や研修会の機会の情報交換に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や思いに耳を傾けゆっくりと時間を掛け信頼関係を築いている。また、安心した生活が送れるように話しやすい雰囲気や環境作りにも心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は必ずケアマネジャーとの面談を行い、家族の思いを傾聴し要望や不安等を聞き安心できる対応を行い、信頼関係の構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のおかれている状況を理解し各担当者とその時必要なサービスを見極め可能な限り支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活歴や経験、情報を共有し常に尊敬の念を持ちながら暮らしを共にする者同士関係を築いている。また、生活する中で出来ることを手伝って頂いたり、教えて頂く事や気遣って頂く事もあり信頼関係を深めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子を面会時や生活状況報告者作成し郵送している。また施設行事には家族の参加を促し本人と家族が触れ合えるきっかけ作りを行い、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、里帰りでお盆の墓参りやお正月の年始などで馴染みの方々との関係が途切れないように努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が生活の中で保有能力を活かしながら洗濯物たたみやお盆拭き、おかずの盛り付け、居室の掃除を行い支え合う場面が見られている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業者所のサービスを受けられる際には、当施設でのアセスメント、ケアプランの情報提供を行い今後のサービスがスムーズに実施されるように連携を図っている。必要に応じて本人、家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント、モニタリングを有効活用しながら本人・家族の意向や希望を確認後、介護計画に反映している。本人の意向・希望の確認が困難な場合には周囲関係者への聞き取り、生活歴やパーソナルな部分に焦点を合わせてその人らしさに配慮している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人・家族・前ケアマネ・各関係者へ聞き取りを行うと共に介護計画書・サマリー等の資料の情報収集することでこれまでの暮らしを把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の持つ保有能力（洗濯物たたみ、お盆拭き、掃除機かけ等）を生活リハビリや日常の様子から探り出し、見守りながら支援する事で達成感のある暮らしとなるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状況の変化に応じモニタリング表を見直しを行い充実した担当者会議を目指している。家族や各関係者とも情報を共有してお互いの知識やアイデアを反映させた介護計画書を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は介護日誌へ記入しモニタリング表でケアプランの達成度を評価している。家族へは毎月生活状況報告書（写真付き）を作成して入居者の様子を報告している。各個別記録を基に職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の日々変化する状況に流動的に対応できる体制を整えている。職員間の報告、連絡、相談を密にし情報の共有化を図り柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる運動会や花火大会その他の行事を見学したり、ホームを地域の中学生福祉体験学習の場として提供している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族がかかりつけ医と面談され納得して受診できるようサポートしている。特変がみられた際は早急にかかりつけ医に連絡をとり迅速な対応を行い、本人、家族が安心して適切な医療を受けられるように支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の変化を常に観察し特変がみられた場合には施設看護師や訪問看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際、医療機関と互いに情報を共有し本人にとって適切な治療を受けられるように支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の方が最後まで人間らしく尊厳を保ち安らかな死を迎えられるように職員一同誠意を持ってケアに努めている。人生の最後の時を家族に見守られて迎えられるように、家族の理解と協力を仰ぎそして、家族と職員一同が一体となってケアを行う事で入居者の孤独感を取り除き、安らかな死を迎える事ができるように支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生や緊急時の連絡対応方法について対応マニュアルを作成している。避難訓練時には、AEDキッドを使用した訓練を行い全職員が対応できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時や災害時の対応についてマニュアルを作成している。昼、夜間帯を想定し車椅子の非常階段からの避難訓練を消防署の指導も受け定期的に実施している。また、AEDの対応を全職員対象に的確にできるよう実践訓練を重ねている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を損われないように、その方の人格を尊重するような言葉掛けや対応、環境作りに努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択や外出、買い物等個々の思いや要望を日々の生活の中から汲み取り自分の意思で決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やペースを汲み取りそれに合わせた生活ができるよう支援している。就寝や起床、入浴や休息等なるべく本人の希望に沿って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問美容の依頼を行い、更衣については、本人の好みを尊重し個性を大切に支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体能力に応じて、調理補助をお願いしている。また季節行事では入居者様の好みを聞き入れた食事を提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにて、栄養士がバランスを考えた献立に沿った調理を行っている。また、それぞれの入居者の状況に合わせた形態や摂取量、水分量に配慮しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各入居者の口腔ケアの状況を把握し保有能力を活かせるよう支援を行っている。定期的な受診が必要な方は、訪問歯科や受診にお連れし清潔保持のケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理をすることで、入居者の排泄パターンや習慣を把握しトイレで排泄して頂く支援を行っている。夜間帯も必要な方はポータブルトイレを設置する事で安心して排泄できるよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時に食物繊維や乳製品を多く取って頂き、体操や散歩を心掛ける事で便秘の予防につながっている。排便困難な入居者は医師への相談を踏まえ緩下剤を使用、調整し個々にあった支援を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴はできるだけ入居者の希望にて時間帯、順番等タイミングを合わせ支援をしている。入浴への拒みが強い方については、様子を見ながらスタッフが交代し配慮しながら不安なく入浴して頂けるよう支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状況を各自把握する事で、午睡やレク、散歩等に誘い入居者の体調管理に配慮し、安心して休息できる環境作りに努めている。安眠して頂くよう、照明や室温の調整もしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の詳細が職員に分かりやすいように各個人の介護記録に処方説明書をつけ確認できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事、誕生日会、バスハイクの企画で職員、入居者の方々との交流を深め楽しみを共感している。その他に生活習慣を維持して頂けるよう洗濯物たたみや食器洗い等で出来る事での役割をもてるよう支援しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、日程を決めシフト調整を行い希望の場所に外出できるよう対応している。また、年2回のバスハイクを実施し楽しんで頂ける様支援を行っています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者のレベルに応じ毎月のお小遣いをお渡しし本人より希望があれば、店舗へ同行し購入の支援を行っている。金銭管理は、領収書を出納帳に保管し記入しています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、時間を考慮し電話して頂いたり、手紙、切手の購入に同行し、本人から手紙が出せるよう支援しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには、バリアフリーで居室のドアに名札を設置し認知しやすいよう配慮している。また、リビングやテーブルに季節の花、行事の写真ひな人形や鯉のぼり、カレンダー等の季節を感じ取れるように居心地の良い環境の提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとエレベーター前スペースにソファや長椅子を設置し、海が見える窓から景色を見て個人または、仲の良い入居者同士で過ごせる居場所の提供を行っています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや写真、家具等を居室に設置しました、本人が制作した作品等を飾り安心できる空間を作り居心地良く過ごせるよう支援しています。家族が宿泊される際は和室を提供しています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置、各部屋入口にプレートを下げ、入居者様が自立した生活が送れるよう支援しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない